

平成22年度 学校評価に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	評価結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 金沢高校生としての自覚と品性の陶冶に努める。	① 朝自習を徹底させ、明確な理由のない不注意遅刻皆無を目指す。	不注意遅刻の一日平均は A 0.5人以下 B 1人以下 C 2人以下 D 3人以下	1学期 0.43人 2学期 0.73人 3学期 0.85人 年平均 0.66人 評価【B】	昨年度の0.83人から大幅に減少し、ここ数年の増加傾向に歯止めをかけることができた。特徴的なのは9月と1月の学期始めの月に遅刻者が集中(年間の43%)していることであり、次年度は学期始めの遅刻をさせないための対策が必要である。
	② 全校一斉の登下校指導(年3回)や、定期的指導を実施して、校風に合った服装・頭髪を目指す。	生徒の身だしなみ(服装・頭髪)の状態は A 大変良い B 概ね良い C 普通であった D あまりよくなかった	評価【B】	評価のためのアンケート調査等を実施しなかったため、記載の評価は客観性に欠けるものであるが、身だしなみについては概ね良好と判断している。ただ、若干名ながらスカートの折り曲げや登下校時にネクタイをはずす生徒を見受けることがあり、次年度も根強い指導が必要である。
	③ 「非行撲滅」を目標に掲げて、未然防止のために、面談や声かけを実施していく。	問題行動の数は A なし B 昨年度より減少 C 昨年度と同数 D 昨年度より増加	評価【D】	今年度は1年生に問題行動が多発した。これまでは無かった現象が生じた結果、昨年度を上回ってしまった。次年度2年生の中だるみには十分気をつけて指導していく必要がある。
	④ 生徒や保護者からの相談に柔軟に対応する。学年会・各部署との連携を重視し、問題を抱える生徒について全職員への共通理解を図るため職員会議や学年会などで適宜連絡する。	問題を抱える生徒への対応は A 十分な対応ができた B まずまずであった C やや不十分であった D 不十分であった	評価【B】	毎週実施の学年会において学年全体の共通理解のもとに対応するスタイルが確立してきた。さらに相談室に関わる生徒については学期毎にカンファレンスを実施して状況確認と対応を協議してきた。
	⑤ 生徒対象の講演会を企画し、各方面の見識を高め、聞く姿勢を涵養し、生き方・心の教育に資する。	年間の講演回数 A 5回以上 B 4回 C 3回 D 2回以下	年間講演回数2回 評価【D】	9月2日:文化祭講演(講師)てんつくマン氏(演題)天国はつくるもの 2月3日:1年対象講演会(講師)池間哲朗氏(演題)懸命に生きることもたち
	⑥ 教室内を整理整頓し、気持ちよく学習できる環境をつくる。 ・美化意識を深めさせ、自主的に美化に協力するよう指導する。 ・生徒玄関の整備と部室の管理徹底 ・日常における清掃の徹底	毎月最終木曜日の大掃除、毎週木曜日を清掃強化日とする。 A:十分な対応ができた B:まずまずであった C:やや不十分であった D:不十分であった	運動部生徒が早朝清掃を実施するなど校内美化に貢献してくれている。 評価【A】	生徒会指導部企画・石川の掃除に学友会協力により、「教師と生徒、共に学ぶトイレ掃除」のテーマで生徒・教師有志101名が、12月11日(土)午前中にトイレ掃除を行った。次年度につなげたいものである。校舎美化は心を磨くことにもつながり、早朝の清掃活動を実践している部があることは高く評価できる。
	⑦ 読書を奨励する。自己教育のための最も基本的な方法として読書があることを理解させ、広がりのある読書ができる生徒の育成を目指す。	A:貸出数50%増加 B:貸出数25%増加 C:昨年度と同数 D:貸出数減少	貸出数の変化 H20年度:810 H21年度:1,154 H22年度:3,302 評価【A】	昨年度に引き続き、今年度もハード、ソフト両面で多くの改良を加えた。 ・国語科の協力を得て、4月に1年生対象のクラス別ガイドランスを図書室にて実施。 ・書庫の照明配列変更とエアコン設置し、書庫を完全開架。 ・雑誌棚作成、ステップ台3台配置 等々
2 家庭学習習慣の確立を図り学力を向上させる。	① 家庭学習の定着を図り、意欲的に学習に取り組む生徒を増やし育成する。家庭学習時間調査、家庭学習チェック表と定期検査前スケジュール表の点検。	目標家庭学習時間2時間以上 1年生:A:~30%、B:~20% C:~10%、D:9%~ 2年生:A:~40%、B:~30% C:~20%、D:19%~ 3年生:A:~50%、B:~40% C:~30%、D:29%~	1年評価【B】 2年評価【A】 3年評価【C】	5月、7月、9月、11月、2月(1,2年のみ)の5回調査の変化 1年:19.4%→19.6%→19.7%→27.5%→28.6% 2年:28.5%→29.9%→26.4%→38.4%→42.6% 3年:27.1%→28.7%→33.6%→40.6% 1,2年ではI類とII類では学習時間に大きな差がある。 <2月調査結果> 1年I類:39.1%、II類7.7%、2年I類:52.7%、II類:4.4%
	② 難関大学合格へのチャレンジ精神を喚起し、ひとり一人の生徒の学力を向上させ、進路志望を達成させる。	国公立大進学者数/大学進学者数 A:20%以上 B:15%以上 C:10%以上 D:10%未満	Sコース 評価【A】 特進文型 評価【B】 特進理型 評価【A】 進学文理 評価【D】	夏季休業を利用して1,2年の希望者対象に関西方面の大学見学会を実施した。参加者がクラスの核となって頑張る生徒が増えていてもらいたい。
	③ 一般入試制度を研究し、積極的にセンター試験を利用するようにさせる。	センター試験の受験率 A:70%以上 B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	受験率72.4% 評価【A】	国公立大や難関私大希望者は受験するが、私大に推薦入試で合格決定した生徒がセンター試験の受験を取り消すケースがある。
	④ 教員の予備校研修の企画と実施により教科指導力を高める。	A:十分行われた B:まずまずであった C:やや不十分であった D:不十分であった	評価【D】	実施案内が長期休業直前であったため、部活動や学校行事等の関係で日程的な調整が難しく、今年度は積極的な参加がなかった。次年度は見直しを持って早めの対応をしたい。
	⑤ 測定や点検により学習環境の状態を把握する。 ・換気および保温 ・採光および照明 ・AED ・飲料水 ・ゴミ処理場	A:十分行われた B:まずまずであった C:やや不十分であった D:不十分であった	評価【A】	換気及び保温、採光及び照明、飲料水など学校薬剤師による点検等を実施した。生徒自らゴミの分別や教室内の換気、蛍光灯の取り替え等を行い、環境問題に対する取り組みを随時行っていた。
3 部活動、特に文化部への入部率を高め学校を活性化させる	① 文化部については、文化祭を平素の活動の発表の場ととらえ、すべての部・同好会への参加を促す。 校内掲示板の有効活用を図る。勧誘ポスター以外の各種大会に向けての抱負や戦果なども一般生徒に発信する。	A:円滑に行われた B:まずまずであった C:やや不十分であった D:不十分であった	毎年少しずつではあるが入部率は上昇している。 女子の入部率をアップさせ、学校をより活性化させたい。 評価【B】	(過去3ヶ年の入部率%変化) 1年 2年 3年 全体 男子 70→73→69 63→66→70 55→61→61 63→66→67 女子 59→62→58 57→56→59 50→48→57 55→55→55 全体 66→69→65 52→62→66 53→56→59 60→62→63 入部率70%を目指したい。 1年 2年 3年 全体 体育系部活動・同好会入部率% 51 55 48 51 文化系部活動・同好会入部率% 14 12 12 13
	② オープンスクール・部活動体験の中で各部の特徴を紹介する。また、「学校案内」や各種資料を通じて、中学生や保護者に対して部活動内容や特徴を紹介する。	生徒・保護者への広報活動が A:たいへんよかった B:まずまずよかった C:あまりよくなかった D:よくなかった	部活動の推薦入学者が例年よりも多い69名であった。 評価【B】	オープンスクール実施についての中学校への案内が例年他校よりも遅れがちである。次年度は5月中旬頃を目処に中学校へ実施案内を届けたい。